

女子  
200

# 福島 日本人 トップ 2位

【女子200m・タイム決勝】同種目今季初戦で自己3番目となる23秒12を出した福島千里(大瀧百合香撮影)



福島千里の五輪イヤーの滑り出しとなった。23秒 年の記録よりも0秒01、五200m初戦は、ますます 12は、4連覇を果たした昨 輪参加B標準(23秒30)も

## 「タイムはまずまず」島 400R3走で大会新 福

上回り、自己3番目の記録。ただ、A標準(23秒10)を切れなかったことに「五輪で戦うためには、A標準を余裕でクリアできないといけないのに」と歯切れが良くなかった。

【女子200m】関係分  
▽200m(3組)タイムレース ①福島千里(北海道ハイテクAC)帯南商高 23秒12  
②佐藤真有(東邦銀行)福島大、帯南商高 23秒21

【女子】関係分  
▽4000mリレー①日本(土井杏南、高橋萌木子、福島千里、市川華菜) 43秒79  
大会新  
▽1600mリレー①日本(青木沙弥佳、佐藤真有、久保倉里美、千葉麻美) 3分33秒64・大会新

## 静岡国際陸上

# 佐藤 女子400で7位

【静岡】陸上競技の日本グランプリ(GP)第4戦・第28回静岡国際大会が3日、静岡県袋井市の小笠山総合運動公園エコパスタジアムで行われた。3組のタイムレースで争われた女子400m決勝は、福島千里(北海道ハイテクAC)帯南商高出が23秒12で2位となり、5連覇はならなかった。優勝はアマントル・モントシヨ(ボツワナ)。女子400mの佐藤真有(東邦銀行)福島大、帯南商高出は54秒21で7位だった。6チームが出場した女子400mリレーでは、福島が3走を務めた日本が43秒79で優勝。2チームの同1600mでは佐藤が日本チームの2走で出場し、3分33秒64で1位だった。いずれも大会新記録。10面に関連記事。(北雅貴)

選手権400m覇者のアマントル・モントシヨに追い抜かれた。「トップスピードのピークがなかなか来ず、すーっと走ってしまっている」と独特の言い回しで爆発的な走りができないうもどかしさを表現。「スタートが良くなかったのに、タイムはまずまずだったので驚いた」と感覚のずれに苦笑いを浮かべていた。

## レース組み立てに苦心 佐藤 1600R大会新に貢献



【女子1600mリレー・決勝】第3走者にバトンを渡す佐藤真有(中央)。3分33秒64の大会新をマークした(大瀧百合香撮影)

女子400mの佐藤真有は54秒21で7位。「今は内容よりもタイム。53秒台で走りたかった」と厳しい表情で振り返った。

4月上旬から下旬に掛けて、所属する東邦銀行のメンバーと久保倉里美(新潟アルビレックスRC)とともに米国に遠征。現地でも出場した2大会では、前半に飛ばしすぎて後半に失速。帰国後の練習で修正し、好記録の気配を感じていた。「前半に飛ばさず少しずつスピードアップ」のプランに沿ったが、中盤から思うように前を追えずにすると後退。「うまくレースを組み立てられない」と消化不良のレースとなった。

うれしいこともあった。1600mリレーは3年ぶりに「JAPAN」のユニホームに身を包んだ。「久しぶりだったので嬉しかった。リレーは楽しい」と口元を緩めた。記録は3分33秒64・大会新

北京五輪を経験し、「出るだけでなく勝負しないと充実感味わえない」と高い意識を持って取り組んできた。今月19、20の両日に開かれる東日本実業団選手権大会の400mで53秒台を出し、昨年予選落ちの屈辱を味わった日本選手権(6月)は52秒台で駆け抜け、2種目で五輪出場を目指す。